



白い森スノーフェスティバル 小国の冬を盛り上げる

2月21日、道の駅白い森おぐにを会場として白い森スノーフェスティバルが開催されました。

イベントでは、バブルボールに身を包み、雪上で押し合う「雪上バブルボールすもう」が初めて行われ、参加者は新しい感覚のアクティビティを楽しんでいる様子でした。

このほか、会場では木育ワークショップでのスプーン・フォークづくりやスノーランタン制作、雪像づくりなどが行われ、晴天のもと、大きな盛り上がりを見せていました。



▲新競技「雪上バブルボールすもう」の様子

緑のふるさと協力隊&地域おこし協力隊活動報告会 活動を通じた経験や町への提案を発表

3月3日、白い森ショッピングセンターアスモにおいて本町の緑のふるさと協力隊及び地域おこし協力隊の活動報告会が行われました。

当日は今年1年間の活動の総括と、活動を通して得られたこと、そして得たものをどう生かしていくかについて各隊員から報告がありました。また、隊員から町に対して経験を踏まえた提案や今後の本町の展望についても述べられ、参加したかたからは発表に対して大きな拍手が送られていました。



町内小中学校 地産地消の日給食 地元の恵みを楽しく美味しくいただく

3月6日、町内各小中学校において地産地消の日給食が行われ、山形県産食材の米沢牛を使った牛丼と小国町産食材のワラビとナメコの味噌汁が提供されました。小国小学校で給食委員長を務めている5年の本間崇介さんは「小国や山形には美味しい食べ物がたくさんあることは知っていましたが、今回給食で食べることであらためて地元食材の美味しさを学びました。この給食を通して、児童の皆さんにも地元の食について知ってもらえればと思います。」と話していました。



▲米沢牛の牛丼を味わう

第28回雪の学校

自然と文化を体全体で学ぶ

第28回雪の学校が、3月7日から8日にかけて、白い森交流センターリふれを主会場に開催され、県内外から参加した18人のかたが地元のマタギと徳網山を登るスノートレッキングやマタギ講話、伝統行事のさいず焼きを模した火まつりなどを体験しました。

参加したかたからは「実際に雪山に登る体験や貴重なマタギの話を聞くことができ、小国の冬について多くの経験を得ることができました。」と感想をお話いただきました。



▲かんじきを履いて徳網山をスノートレッキング

雪の中の大冒険

探して走って冬を満喫

小玉川地区自然教育圏整備促進協議会、小玉川地区青年団イチコロが主催する雪の中の大冒険が3月8日、旧小玉川小中学校グラウンドで開催され、毎年名物となっている雪でつくられた巨大迷路や滑り台などがつくられたほか、恐竜レースやスノーモービル体験、迷路での宝探しなどのアクティビティも行われました。訪れた子どもたちからは「雪の迷路は迷ったけど宝物を見つけられて嬉しかった」、「雪の上を走れて楽しかった」といった声が聞かれました。



▲雪の迷路でみんなで宝探し

ぶな文化ふれあい講座

受け継がれる生活技術を体験

小国町教育委員会が主催するぶな文化ふれあい講座の「わらじ・ぞうり編み教室」が3月17日、おぐに開発総合センターで行われ、5人が参加しました。

教室は横山清雄さん（幸町）を講師に迎え、本町で長年受け継がれているわらじ・ぞうりの編み方について学びました。参加者は講師の手や足の使い方などを見ながら、ビニール紐や布切れを使いぞうりを制作しました。悪戦苦闘しながらも参加者同士で会話をしながら楽しく体験する様子が見られました。



▲体を使いながらぞうりづくりを進める